

第4回宮代町公共施設マネジメント会議議事録

1 開催日時

令和3年12月17日（金） 午後0時30分～午後3時00分

2 開催場所

役場1階101・102会議室

3 出席者

佐々木誠委員長、難波悠副委員長、唐松奈津子委員、佐藤恵祐委員、力石琢磨委員

（事務局）企画財政課

栗原課長、伊東副課長、小川主幹、大越主査、山下主事

4 次第

- 1 開会
- 2 前回までのおさらい
- 3 ワークショップの振り返り
- 4 新たな再編モデルの構築
- 5 その他

5 議事(要旨)

(1) 前回までのおさらい

前回までのおさらいについて、事務局より資料に基づき説明を行ったところ、以下のような質問・意見があった。

【事務局から前回までのおさらいについての説明】

佐々木委員長 参考資料内の「生活圏の範囲が広がったところ～（略）～今、狭まっている」とあるが、いまひとつしっくりこない。これについて解説が欲しい。

事務局 実感的なもの。以前は、高齢者対象のみやしろ大学を行うと、役場の前の道が自転車であふれかえる程たくさんの参加があったが、最近は自転車で来る人は少なく、車で来られる人は来るし、来られない人は来ていない。65歳から高齢者だが、更に上の世代の高齢者が増えてきて、進修館まで出てこられないという人も増えてきている。

佐々木委員長 高齢化によって移動範囲が狭まっているということか。

事務局 そう。生活圏という表現ではないのかもしれない。よく聞くのは、進修館の周りで催しをやっているようだが、自分たちは行けないという声。

唐松委員 ワークショップでも結構そういう声があった。

- 力石委員 年を追うごとに活動範囲が狭まってしまうというのはあるかもしれない。
- 佐藤委員 高齢者の行動範囲は狭まってしまう一方で、むしろ若者は広がっていると感じる。スポーツや趣味の活動のコミュニティがかなり広がっている。
- 力石委員 二極化しているかもしれない。
- 事務局 確かにスポーツは広がっている。
- 佐藤委員 地域の中心にある身近な施設と、スポーツや趣味などの広い範囲を目的とした施設があると感じた。
- 佐々木委員長 高齢化による移動範囲について、公共施設がどの位置にあるかというのは移動にも関わってくるので、現状認識としては必要である。一方で、若い人が広域化しているのは、どんな要因があるのか。
- 難波委員 ワークショップのまとめを見ると、スタバやマックが欲しいとある。長時間滞在できる場があれば、宮代に滞在するのかもしれない。
- 佐々木委員長 文化的な成熟のようなものがあって、スタバのようなカフェが一般化し、サードプレイスとして過ごすというライフスタイルが浸透してきた。あとは、高齢化とも関係しているかもしれないが、コミュニティの在り方。今までは、近隣で集まって交流するのが当たり前だったが、そうじゃなくてもよくなってきた。そういう前提を確認した上で、公共施設について報告書に記述するとしっくりくると思う。ワークショップの結果に出ているので、そこと繋げてできるかなと思う。
- 難波委員 資料の図が、これから作成する報告書になっていくとすると、気になるのが、第一期が学校にまとめようという話、学校が地域の中心施設と読めるが、先ほどの話だと、集会所の方がモビリティがない人にとってはよいというのがある。本当に中心になる施設と地域ごとのコミュニティに散らばっている施設というのがあるかもしれない。
- 佐々木委員長 それが、図内のクエスチョンマークの所。
- 唐松委員 この図を最初に見たときに、これで説明していくのは無理があるのではないかと感じた。第一期のハードと機能の話に基づいている矢印に引っ張られているが、今回はソフトも含めて使い方を考えていく中で、進修館や笠原小の矢印はまっすぐ引かれるだけなのか。
- 事務局 長寿命化だけニュアンスが違うかもしれない。笠原小と進修館は建物がユニークなので、建て替えという概念ではなく、長寿命化していく選択肢しかないの、そう書いてあるもの。

- 佐々木委員長 似たような民間の施設もできてきて、ワークショップでも意見が多かったのが無印良品の学び舎の空間が勉強する場として高校生に人気だということ。ワークショップもやっている。進修館と同じだと思ったが、あまり進修館のことは語られず。同列で見ると公民連携や役割分担ができ、無駄な経費を負担しなくてよいというようなよい方向に持っていけるかなという話が、個別更新や長寿命化に浸透してくるとよい。先ほどあった表現の仕方も含めて検討してほしい。
- 事務局 公共施設のくくりではないものもあるかもしれない。町内会でやっていたり。
- 佐々木委員長 集会所も公共施設ではない。公共施設に近い施設が周りであって、それとはっきり区別するのではなく、関係づけていく。相互利用していくというイメージが描けるとよい。
- 難波委員 第一期の頃に比べると、モビリティの提供の仕方が大きく変化している。昔は、コミュニティバスを走らせるか、タクシーを利用するかしかなかったが、今は、自分の車に乗せてお金をとってよいというような制度になってきていたりする。必要なものを施設で置いておくのではなく、動けるようにしておくというのも計画に入れられるとよい。
- 佐々木委員長 確かにモビリティの視点は重要だと思う。白タクは OK になっていない。中山間地点などは規制緩和で OK というのはあるが。
- 佐藤委員 この付近だと、福祉有償運送といって、交通不便な所は登録して、乗り合いできるという制度があるようだ。
- 力石委員 デイサービスの送迎車を活用したデマンド乗合サービスを行っている事業者もいる。
- 唐松委員 事業者のついで相乗りのようなものもあるし、市民同士の乗り合いをしている所もある。
- 佐々木委員長 町会で車をリースして地域の高齢者の移動をサポートしているというのものもある。
- 難波委員 交通事業者が自家用有償旅客運送をできる制度というのが、2020 年の通常国会に提出されたようなので、通っていればやっているかもしれない。
- 事務局 福祉運送だと、NPO が会員になってもらい、会員を送迎するという名目で行っていたりする。
- 佐藤委員 この図を見て、何となくイメージは湧いた。第一期は学校を地域の中心施設として機能を集約させていく考えだったが、第二期では、それに加えて、それぞれの地域に必要な機能や役割をエリアとして位置づけていく。そこに入らない大きな内容については、広域的な利用として、先ほどのモビリティなどを使いながら、連携させていくというイメージなのかと思った。

佐々木委員長 第一期の報告書にあるような地理的表現は必要。細長い宮代のどこに何があって、それをどう連携、関係づけていくか。そこに移動手段、モビリティが入ってきて、第三期ぐらいには自動運転の話にもなってくるかもしれない。レンタサイクルは普及してきているが、宮代は試みたことがあるのか。

事務局 進修館で行っている。

佐々木委員長 進修館でやっているようなのではなく、乗り捨てができるようなのはまだない。都心部はかなり普及している。総合計画のワークショップでも移動の話はよく出ていたので、そういう意味では、モビリティを意識した、公共施設の配置、地理的な関係も示せるのかなと。前回あった4つの論点の中で、地域コミュニティの在り方というのが中心的なテーマになっているが、民間力の活用というのも次に重要というような気がしている。

以上

(2) ワークショップの振り返り

ワークショップの振り返りについて、事務局より資料に基づき説明を行ったところ、以下のような意見があった。

【 事務局からワークショップの振り返りについての説明 】

佐々木委員長 実際に委員も参加しているので、補足などがあれば。

力石委員 若い世代からは、多世代で交流して、やりたいことをサポートする、教え合う場にしたという話が結構出てきた。高齢者と若者を分断せずに、進修館など核となる拠点もありつつ、地域の身近な集会所でも多世代が交流できるような機能をサテライト的に作ってあげるとよいのかなという印象を持った。

唐松委員 あるといいスペースについてたくさんアイデアが出てきた。気になったのは、なくて困るというか、課題になっているもの。一つ目は、子どもたちの居場所。二つ目は、大きな病院。町民の健康と生命を支える場所が不足している。三つ目は、世代間交流を生む場所。高齢者や子ども、社会的な弱者の孤立を防ぐ意味でも、有事の際の自助や共助を促進する意味でも、誰かと交流を生む場所がないというのが課題としてあると感じた。

力石委員 確かにその声は多かった。原っぱがいっぱいあるのは宮代の良さだが、今時の子どもは、遊具がないとなかなか長時間遊べないという声もあった。

唐松委員 それもエリア格差がある。子どもたちの居場所と言っても、中高生の居場所がなかったり、もっと小さい子の遊ぶ場所が足りなかったり、エリアによって差があることもワークショップで感じた。

佐藤委員 思っている以上に公共施設を知らなかった。はらっパークを知らなかったり、ぐるるは名前ぐらいなら知ってる、昔行ったことがあるというような。

唐松委員 住んでいるエリアにもよる。笠原小学校の陽だまりサロンは、笠原小学校出身の子はよ

かったと言っていたが、北側の地域の子は全然知らない。

佐藤委員 結局、年齢によって使う施設は色々。子どものときに使いたい施設と、ある程度の年齢になって、高齢になって使いたい施設と、世代によって必要とする施設が違う。無下に施設を廃止するというのは難しいと思った。

唐松委員 町民の暮らしとして必要な機能は、最低限必要。

佐藤委員 それが身近にあればよりよい。少し遠くてもあればよい。

佐々木委員 公共施設を知らない人がいるということだが、結構、新住民の参加者もいた。生まれてずっと宮代という人もいたが、引っ越してきて何年という人もいた。そういう人が既にあるものやコミュニティに関わるきっかけに戸惑っている印象があった。世代間という話もあったが、新旧住民格差を埋めるという視点があってもよい。

唐松委員 移住して一年ぐらいと言っていた人からたくさん意見が出ていた。他のエリアから来たことで、ギャップが見えて、こうしたいという気持ちを出せる場があればよい。

難波委員 そういう人たちは無印には行くけど、進修館は知らなかったりする。小学校で、はらっパークに遠足に行くとかはないのか。

事務局 うちの子どもは東武動物公園に行っていたが、公共施設へはないかもしれない。スポーツや趣味の集まりなど活動のグループに属していないと公共施設を使わないかもしれない。

唐松委員 前回の話のように見える化が必要。エリアによる格差もそうだし、勿体ない気がする。

カ石委員 ママさん中心に、旧ふれ愛センターがよかったという話が結構出ていた。集まって相談ができたが、それがなくなってしまったので、相談もしづらいという話が出ていた。

佐藤委員 旧ふれ愛センターは、意外とふらっと行けて、外でも遊べるようなイメージがあった。すてっぷ宮代は入ってはいけないようなイメージ。確かに行きづらい。社協の建物というイメージになっている。イベントがあれば行けるが、昔の使い方とは違う。話は戻るが、3地区の中心にあるコミュニティの拠点は、音楽ができたり、本が読めたり、フレキシブルな部屋があったらよいというのは印象に残った。図書館で勉強するのもよいが、静かすぎるので、無印良品の方が、アバウトな緩い感じでコーヒーを飲んだり、何か食べたり、話したりしながら勉強もできる。若い人は、そちらの方がよいと言っていた。

唐松委員 用途を決めないフリーなスペース、オープンなスペース、何にでも使えるスペースというのが何処の施設にも必要なのではないかと感じた。

佐々木委員長 進修館がその用途のはずだが、そのよさに気づいてない人が結構いる。

- 唐松委員 あと、開かれていないという印象。中に入らないと分からない。設計は、何処からでも入れるように考えられているが、入りづらい雰囲気。
- 難波委員 子どもがいて、芝生で遊ばせていたら、そのまま入れる。
- 唐松委員 そう。あとは、中で何をやっているか分かっていたら。
- 佐々木委員長 何かのついでに入ってみようかというような。無印良品に買い物に行ったついでに学び舎があるというような。ついでってとても重要。用途を決めない。
- 難波委員 目に見えて、入って大丈夫そうと思うかどうか。
- 唐松委員 目に見えて入ってよさそうな雰囲気に見えない。入れば、2階のロビーなど広々として気持ちよいが、入るまでに勇気がいる。
- 佐々木委員長 新住民だとなかなか入りづらい。慣れてくると良さがわかってくるみたいな、玄人受けするみたいな感じ。無印良品は、初心者でも行けるけど、進修館は玄人受け。
- 難波委員 公共施設は、子どもがいれば行くきっかけがあるが、そうではない層は、公共施設を知らないし、何処に何があるか分からない。
- 佐々木委員長 進修館もカフェはあるが、福祉団体が運営しているので民間のカフェとは違う。
- 難波委員 そういうところで民間に活動してもらおうとか、地域の人が飲食のお店をやっていて、そこに行ってその先を知るような。公共サービスを利用しない公共施設のユーザーも出てくるのでは。
- 佐々木委員長 前回のまとめで言うと、目的がない人も行ける開放的な場所。あと、Wi-Fi があるのは重要。進修館はあるが極端に遅い。Wi-Fi は比較的新しいが、結構みんなが使っている技術。そういうインフラがあると20・30代も利用しやすくなる。
- 力石委員 ファミレスに行きたいという意見では、それもあった。フリーWi-Fi の利用もできると話が出ていた。そこは、まさに民間活力に繋がってきて、民間が関わることで入りやすくなり、そのついでに公共機能を使う。
- 佐々木委員長 無印良品には100円コーヒーがある。カフェインレスもあり、同じ豆が買える。スタバまでは行かないが、コンビニよりは少しよいみたいな。
- 唐松委員 ソファもある。
- 佐々木委員長 コーヒーの販売は全国で一位になったようだ。本の売上もよいみたい。本屋も世代を超

えて行く所。

唐松委員 ワークショップに参加した学生たちが本屋も欲しいと言っていた。

佐藤委員 進修館を作ったときに、どういう経緯であの形ができたのか、どれくらい市民参加で作ったのか分からないが、ワークショップでは、地区の身近な施設をどう使うかを考えて、それが本当に実現できたら楽しいと言っていた。身近な施設を作るときは、使う人たちがどんな使い方をしたいかを聞くことが大切で、そういうのに関心を持っている若い人が結構いたと感じた。

事務局 聞き方を間違ってしまうと、声の大きな人の意見だけを取り上げた施設になってしまう。

唐松委員 当時は明確な目的や機能がある前提で作られているが、今はそうではない。最低限必要な機能や目的はあるが、使い方を町民に任せる、フリーで委ねていくことが必要ではないかと思った。

佐藤委員 町長のあいさつでもあったが、進修館は当時何もないときに作った施設だから、色々な機能がある。体育館のような利用もできれば、会の利用もできる。色々な使い方ができるが、使い方は時代で変わってくる。進修館は議場にもなるが、議会があると市民は使えなくなる。議場は年中使うものではないから、上手な使い方ではあるが、市民の利用を阻害する一つの要因になってきてしまう。

唐松委員 グループ内で話をしている、色々な機能が欲しいとなったとき、考えてみればこれって進修館じゃんという話になった。でも進修館が使われていないのは、ソフトの問題、使い方や使う側の問題という話になり、ハコモノは要らないという議論になった。

佐藤委員 進修館の使い方を考えれば、それで済む話もあると言っていた。

唐松委員 色々な自治体が作っている多機能施設というものの走り。

佐藤委員 宮代町ぐらいの規模だと丁度よい施設かと思う。

事務局 ワークショップを行った大ホールは、固定席の考えだったが、スポーツもできるようにということであの形になった。役場の職員は慣れてしまっているが、初見だと感激する人もいる。

佐藤委員 インパクトはある。以前はミラーボールがぶら下がっていた。

事務局 固定席にしないから、ワークショップもできる。

佐々木委員長 このワークショップの成果、煮詰まった資料は最後に3つフセンを書いて貼るというも

の。そのまとめが配布資料にあるので、これを見ながら、まとめの方向に入りたい。ワークショップの感想では、ワークショップ自体がよかったという感想がよく聞こえた。ワークショップの評価ではなく、あのような場が受けるというのは発見だった。

唐松委員 世代を超えて話す場や交流する場がないからだと感じた。

佐々木委員長 ここから見えてくることも公共施設の在り方に反映できるとよいと感じた。世代間交流にも繋がってくる。

難波委員 場だけがあっても使えないし、交流もできない。高齢者と若者が同じ部屋に居ても、放っておいたら別々。誰かがファシリテーション、きっかけを作ってくるとよい。ワークショップも広報でお知らせされると行かないけど、たぶん案内が来たから来た。イベントがあればよいのか、人がいればよいのかは分からないが。

佐々木委員長 ファシリテーターのような、繋ぎ役がいるというのを計画に盛り込んでもよいかもしれない。

難波委員 地域コミュニティの場を作って、今の公民館や進修館をもっと開いていくというなら、そういう人が常駐していたり、片手間にカフェをやりながらこれをやってくれるとか、そういうのがあるとよい。

佐々木委員長 無印良品で言えば、地域連携担当の人がやりたい人たちに声をかけ、ワークショップを仕掛けている。学び舎やみんなの台所、キッチンカーなど。そういうコーディネーターみたいな人がいて、ちゃんと発信もしている。無印良品アプリで、週2～3回は、ワークショップや近隣のお店などを知らせている。そういう動きは重要。それだけでお店の存在価値がグレードアップしている。公共施設というか、宮代町の取組として、もう少し民間的なイメージがあるとよい。Twitterなどで発信はしているが。

カ石委員 町で LINE をやっていると思うが、それで知ったという人もいれば、知らなかったという人もいる。届いてない方々もそれなりにいる。

佐々木委員長 行政だから発信できることとできないことがある。限界があるかもしれないから、町ではない民間的な立場の人がやる。

難波委員 実際に若者、中高生が町のLINEに登録するかというと、そうではないと思う。

事務局 LINEはコロナのワクチン接種で登録者数が増えた。一万件ぐらいなので、三分の一ぐらいの方は登録している。

佐々木委員長 ワークショップの雑談の中で、宮アジ会の話をした。日工大出身のスリランカの人が、月一回、進修館でスリランカのカレーを作って食べるだけの会。大人2,000円、学生1,000円、留学生無料で、半分をスリランカの津波被害へのチャリティという取組。その話に結

構興味を持ってきて、それって広報に出ているのか、どうやったら知れるのかと質問された。そういうのを行政は発信できないが、民間的な人がコーディネートして発信できるとよい。行政の LINE と違うと、中高生も登録するかもしれない。キャンドルナイトも民間の取組だから、営利目的でなければ載せられるけれど、そうではなくて、宮代にこんな面白い取組がある、こういう公共空間の使い方があるというのが自分事として捉えられるとよい。資料の「今あるものの活用」項目はどうして作ったのか。

- 事務局 ワークショップの参加者からの意見をまとめると、このタイトルかなと。
- 力石委員 新しいものは要らないという意見もあった。
- 佐藤委員 確かに、施設を作れと言うよりは、進修館を上手く活用するというのも、今あるものを活用するという話だった。結構そういう話があった。
- 唐松委員 新しい施設を作ってほしいというニーズはほとんど出てこなかった。機能としてほしいという話は出てきたが。
- 佐々木委員長 特に、前置きでそのような話はしていなかったと思う。
- 事務局 総面積を減らして、財政的に、とういうような話はしていない。公共施設は、建てたその時から、時代のニーズが変わってくるので、長続きする公共施設はなかなかないと、経験的に思う。新しい建物を作るというのは難しいと思う。
- 佐藤委員 ワークショップの意見で「多世代交流」とあるが、結局、市民による企画・運営を上手にやらないと多世代交流ができない。
- 唐松委員 ほとんど人に起因するものが多い。
- 佐藤委員 そういう人がいて、情報発信をする。若い人たちが言っていたのは、教えてもらうだけではなく、自分たちも高齢者にパソコンを教えることができる。そういうのも企画、プロデュースなどの機会があればできるが、いきなり自分からやりたいというのは難しい。先ほどの無印良品の地域連携担当のような人が公共施設にも必要なのだと思う。
- 力石委員 エリアでマネジメントするとなると、そういう組織体があるとよい。前回、佐々木委員長も例で話していた。
- 佐藤委員 防災・防犯は、歩いて行ける地域の中心に、必要不可欠。普段は公園だけど、いざというときには使えるとか。第一期の、学校に入れていくという話も納得したが、実際に、学校に公民館機能を入れだすと、防犯上の問題や管理がとても大変になるのではないかと感じる。
- 唐松委員 笠原小は、陽だまりサロンなどどうやっていたのか。

- 佐藤委員 陽だまりサロンは、少し限られた人の利用な感じ。一般の公民館とは違うのかと思う。
- 佐々木委員長 一応、入り口に黄色い帽子を被ったスクールガードのような人がいてチェックしているようだ。
- 佐藤委員 無理に学校に詰め込む必要はないのかなと思った。
- 難波委員 みんなが求めているのはオープンな場で、自由に、気楽に使える場だが、学校はそれを許容しきれない。カフェなど難しそう。
- 佐々木委員長 カフェもできそうに思う。
- 唐松委員 陽だまりサロンでは、飲み物が飲めたと聞いた。小学生の時に、陽だまりサロンに行くと、飲み物をもらえたと話していた。
- 佐々木委員長 小規模で目が届くからかもしれない。入り口を分けたり、パーテーションをつけたり、建築は色々な工夫ができるので、セキュリティのことはそれほど気にしなくてもよいのではないか。一緒にすることのメリットは、時代の変化に柔軟に対応できること。
- 唐松委員 そういうことも含めて、地域の使いたい人たちで自治やセキュリティについて話し合いをしながら運営していけるとよいと思う。
- 佐々木委員長 学校の造りをみると、壁があって、門があってと、何となく聖域的な線引きがされているが、筑波など、そうではない小学校もあるので、そういうのを参考にすることで、イメージは変わってくると思う。
- 佐藤委員 それぞれの3つの地区に必要な機能と役割は、ワークショップの意見にあったような内容からもってきて、もっと大きな話は、モビリティで対応や近隣の広域利用により同じ機能のものを使えるとよい。
- 佐々木委員長 資料の図では3つに分かれているが、モビリティのような横軸があったり、公共施設となっているが民間的な役割が合わさってきたりするのもありだと思う。図書館にスタバあるなら、小学校でもできると思うし、スタバだけでなく民間のカフェができるというのは、ありうる。人口が減ってしまい、そこを誰かが借りてくれるというのなら、財政的にもよい。商業施設ではなく、アーティストのアトリエでもよい。そこを小学生が見学して楽しんだり、色々学べたり、そういう柔軟性と外から見て分かるオープン性が重要だと思う。
- 力石委員 第一期と価値観が変わってきている。寄せていかにコストを抑えるかではなく、あるものを活用しながら機能を時代に合わせていく。その軸で描いていく方がよい。
- 難波委員 使い倒すみたいなの。

佐々木委員長 10年の違いを示せるとよい。

難波委員 使えるポテンシャルがあって使えていないのは、公民館だと思う。あと、進修館。

佐々木委員長 ワークショップで公民館の話をしたら、予約が取れないと言っていた。仕方がないから集会所にするが、集会所は駐車場の台数が少ない。小学校はどうかと聞いたら、小学校でもよいと言っていた。その人からすると、公民館がなくなると困るかもしれないが、同じことが別の場所でできれば問題ない。学校は、立地的にはよい場所にある。あと、図のクエスチョンマークのところに、空き家・空き店舗活用があるとよい。行政が借り上げるのか、中間的な立場のNPOが借り上げて運営するのか、公共施設とは言えないが、色々な役割を持たせて公共的な使い方をしていく。そういうグラデーションがあって、その一つが無印良品の学び舎という風にしていくと、市民感覚からいくと自然な感じがする。財政的な負担も減る。

難波委員 図書館の本を空き店舗に置いたり、商店の空きスペースに置かせてもらって、貸出を行ったりしている自治体もある。

佐々木委員長 図書館も公共の持ち物の本に限らず、自分の家にある本を置いてもらうマイクロライブラリーという取組みがある。無人でも有人でも、そういうのが点在し、検索すればどこに何があるか分かるというシステムを行政が作ってくれとよい。本を目的にカフェに行ったら、カフェが面白くて常連になるというような出会いの場にもなる。本は、結構よいツールかもしれない。

難波委員 お店をやっている人にとってメリットになるかどうかは怪しいが。

佐々木委員長 資料内の「今あるものの活用」のカテゴリーに「農・自然」とある。公共施設とは言いがたいかもしれないが、公共施設としてはオープンスペースの公園というものがあり、それと農・自然はある意味、共通点もある。宮代は「農のあるまちづくり」と言っているので、それをどう扱うのか。これも宮代らしさを出せるきっかけになる。

唐松委員 これは、中高生も含めて、ニーズが多かった。

佐々木委員長 公園の話について、第一期は触れていない。総合計画では、地域のオリジナルパークを作ろうというのがある。公園もハコモノではないが公共施設。公園によっては草が伸びていて管理されていないようなものもある。

事務局 都内に行くと、草が生えないような浸透性のアスファルトのような公園もある。あれなら、草は生えない。草は難敵。やっても、やっても生えてくる。

佐々木委員長 それについては、前回、カ石委員が言っていたアダプト制度を活用する。地域の人に道具を提供し、地域で管理する。地域の自主的な活動の場として、規制緩和してマルシェが

できたりするとよい。

- カ石委員 何か、お金をとれるものを入れてもよい。結局、マネジメントする組織がないと回らない。
- 佐々木委員長 そういう部署が町にできるとよい。横断的に公共施設を使い倒す課みたいな。
- 事務局 結局、地域の現場で、ワークショップにあった館長みたいな人がいるか、いないか。
- 難波委員 そういう人、管理人兼商売を行う人を町で雇うのはどうか。
- カ石委員 エリアプロデューサーを町が雇用しているところもある。たしか、寄居町で行っていた。
- 佐々木委員長 役場の新採用職員は必ず現場からスタートするとか。地域の人と仲良くするために。
- 事務局 地区コミュニティセンターの事業は、役場の中に居ても現場は見られないだろうというコンセプト。
- 佐々木委員長 話を戻すが、農の話は公園と違うので、公共施設ではない。
- 難波委員 宮代町に引っ越してこようという人は、農業が盛んだからというイメージがあって、家庭菜園をやりながら1時間ぐらいで都内に出られる所に住みたいというような欲求がある。でも実際に越してくると、できる場所がないというような。それであれば、新しい村を活用してとなる。
- 佐々木委員長 新しい村は公共施設。
- 唐松委員 ワークショップでもその話が出ていた。コロナになって、家庭菜園を広げたいとなったとき、農家の人は近くにたくさんいるが、誰に聞いたらよいか分からなかったようだ。一方で、ボランティアで教えに行ってもよいというような話も出ていて、繋げることができればよかった。コーディネーター、繋ぎ役がないので、どこにどうしたらよいか分からない。
- 事務局 先ほどから話に出ている、館長やエリアプロデューサーなどは同じ括りの人たち。
- 佐々木委員長 ある一定のエリアを決めて、そのエリアはその人を中心に、年2〜3回関係者と情報交換をして、民間と市民を繋ぐ企画をしてくれるというような。
- 難波委員 農家に無償でインターン、繁忙期にお手伝いをするなどでもよい。
- 唐松委員 母が、農家にボランティアへ行き、少し野菜を貰ってきたりしていた。

- 佐々木委員長 地方には、地域おこし協力隊というのがある。
- 力石委員 たぶん、条件不利地域しか対象にならない。埼玉では一部の中山間地域だけが使えて、この辺は対象ではない。
- 唐松委員 旅行と組み合わせて行っている民間もある。手伝うかわりに、無料で宿泊できるというような。
- 佐々木委員長 宮代町は、新規就農者の育成をしているが、そのまちづくり版みたいなものがあるもよい。まちづくりコーディネーター養成のような。農家にインターンをしたり、図書館長に教わったり、進修館で何かしたりと。
- 難波委員 前回話した、スポーツチームに公共施設を無償で貸して、そのかわりに町に住んでもらい、地域おこし協力隊や会計年度任用職員として雇うというのもある。はらっパークやぐるるなど施設があるからよいのではないか。
- 佐々木委員長 人をいかに雇うか。
- 唐松委員 結局、どんな話をしても人の話になる。
- 佐々木委員長 空間の話をする、空間だけあってもだめで、やはり繋ぐ役割が必要となる。
- 佐藤委員 少なくとも、先日のワークショップに参加していた若者は、自分たちで企画したいという意欲を感じた。そういう人たちに入ってもらって、自分たちのやりたいことや、自己実現のために、みんなと一緒に企画委員会を作っていくというのもよい。
- 佐々木委員長 地域の人を公募しても、半ばボランティアでもよいという人に任せるのもよい。あまりお金はもらえないけれど、企画して運営できますよと。
- 佐藤委員 身近な施設であればあるほど、そうかもしれない。
- 唐松委員 あとは、総合計画にもある、小商いをやりたい人たちにはとてもよい機会だと思う。自分の収益に繋がるかもしれないし。
- 佐々木委員長 公園を一つ預けるから、好きにやればいいよと。
- 難波委員 埼玉県内で、役場の跡地を広場にして、実際に広場として活用する前に、実験的に植木コンテナなどを置き、キッチンカーを出店したい人を募集したり、飲酒もできるのでバーを募集したり、座るためのベンチを用意したり、そういうのをやっている所もある。
- 佐々木委員長 まちづくり会社みたいな。リノベーションスクールでいうところの家守会社みたいな。

- 力石委員 チャレンジショップ事業を行い、どこか公共施設や民間の遊休施設を使う。
- 佐々木委員長 スキップ広場を預けて、自由にやってもらおう。
- 力石委員 結果的に、宮代でビジネスをやってみようという人が来る。
- 佐々木委員長 今、マンデーマルシェはやっているのか。
- 事務局 やっている。普段は、洋菓子屋や無印の前でやっていて、月末はスキップ広場で4～5店舗が集まっている。
- 佐々木委員長 それをコーディネートするのを地元の飲食店に任せてしまうとか。そんな感じで新しい村にも進出していけば、新しい村をもっと有効に使える。宮代らしい「農」が生きてくる。市民による企画運営とは、まさにそれ。時間も過ぎてきたので、一旦休憩をとる。
- 以上

(3) 新たな再編モデルの構築

新たな再編モデルの構築について、以下のような意見があった。

- 佐々木委員長 新たな再編モデルのアウトプットについて、事務局から何かあるか。
- 事務局 地域の中心施設の概念が変わる訳ではないので、前回の地図のようなものは継続していく。前回の個別更新施設に入っていない、ぐるるや図書館、保健センター、給食センターをどうしていくか。非常に難しいところではあるが、その示唆。資料の2番に集約していくことになると思うが、その方向性にも触れていけたら、計画により厚みが出るかと思っている。
- 佐々木委員長 長期的なものがあるけれど、再編モデルという違うタイプのものが入ってくるのも必要。地理的な表現と時間軸、もっと核になるイメージ図が必要かなという気もする。
- 事務局 図などはイメージできていない。
- 佐々木委員長 その辺を意識して、委員から提案があればいただきたい。ワークショップのまとめに戻るが、今の時代は情報発信が重要になってくるが、これに関して何かあるか。自分が思うには、行政発だと受け入れてもらえないので、民間を活用していく。あとは、場所について、地理的な場所というより、空間の使い方や機能、運営の話。問3の模造紙は、ハコモノのイメージになってしまう。建物の枠がない方が柔軟に発想できたのではないか。
- 佐藤委員 メインになるのは、地域の中心施設、機能、役割というところ。高齢化が進んでいる現実もあり、移動困難な人もいるので、福祉や教育は3地区ごとに整備していくのが一つメインになるのかなと。どこまで載せられるか分からないが、アイデアの一つとして、個別では、保健センターを六花に集約する、学校のプールをぐるるで行うなどがある。また、

地区だけでなく町全体としての機能として、図書館などは広域的な利用やコミュニティを視野に入れた施設の使い方という柱があるのではないかと思う。

事務局 個別施設がどれも巨大なので、廃止するとなるとハレーションが大きい。今の段階だと使っていくか、譲っていくかなのかなと。

難波委員 少し異質なのは、保健センターと給食センター。保健センターは、これまでの会議では六花と一緒にしたらよいという意見が出ている。そこをどうするか。給食センターは、これから更新していくことを考えたときに、町としての方向性をどうするのか。佐々木委員長は、自校式と言っている。

佐々木委員長 これは色々な意見がある。現在の給食センターは、問題がある訳ではなく、むしろ評判がよいので、逆の意見は出しづらいが、可能性を書くぐらいはよいのではないかと思う。

難波委員 あるいは、民間活用。給食で使っていない時間や時期は貸し出すなど。

佐々木委員長 今はセンター式だが、自校式のメリットもあるので、民間に移譲し、自校式になる可能性もあるぐらいの書き方。公共施設という意味では、こういうのは、あまり地域のためにはならない。

力石委員 地域に開かれた拠点にはならない。

難波委員 ほぼ隣に老人ホームがあるので、そこに貸してしまうもあり。

佐々木委員長 未来的なことを考えると、公共施設らしい公共施設はなくす方向でよいと思っている。そういう意味では、進修館は未来的、あまり公共施設らしくない。繋ぐような人や情報発信でフォローすれば、上手く活用できるはず。公共施設として象徴的なのは、給食センターや公民館。保健センターも 90 年代のバブルのころ造ったタイル張りで、イメージとしてもどうなのかと。開放的でもないし、古くもなっている。

事務局 佐々木委員長の考え方が基本。ぐるるができたとき、民間のトレーニング施設、ジムはなかったが、最近はある。また、図書館ができたときにはなかった電子書籍やインターネットで本が買えたり読めたりする。たった 10 年、20 年でも変わってきている。

佐々木委員長 ハコモノの役割の変化は明確に謳ってもよい。

事務局 保育園は 2 園あるが、子どもが減っていくというのは長い目でみるとある。メタバースになって役場もという時代だって考えられる。

佐々木委員長 メタバースは、流行っていて、ある程度の機能や役割は果たすが、失われているものもあるはずで、残すべきものは何かというような話は必要。資料の図について、地域の中心施設は、箱型ではなく、エリアだと思う。エリアの中には小学校などのハコモノもあるが、

小学校単体ではなくエリア。その中には空き家が入ってもよいし、民間施設が入ってきてもよい。

カ石委員 新しい村のオープン的なスペースも。

佐々木委員長 学校が中心だが、屋外的なスペースも当然含まれる。

カ石委員 そういう捉え方でいるのはよい。

佐々木委員 拠点施設ではなく拠点エリア。それが広すぎても困るので、徒歩数分という感じで。

事務局 集会所や民間の店舗、公園、学校、コミュニティセンターといったところか。

佐々木委員 3つの拠点エリアもそうだが、点在している集会所も、建物だけでなく庭や隣の空き家なども含めて、柔軟な発想で考えていきたい。

唐松委員 先ほどの議論と重ね合わせると、エリアごとに、コーディネーターが居たり、ハコモノというより、仕組みや組織を載せていくイメージなのかと思う。

佐々木委員長 そう。ハードではない。公共施設と言うとハードのイメージだが、そうではない。

難波委員 役場もそう。先ほどのメタバースの話ではないが、公民館や集会所に行けば、相談事もできるし、証明書も発行できるとなればよい。

カ石委員 ガバメントクラウドなどもあるので、この10年でだいぶ変わりそうだ。

事務局 節目が令和7年。

佐々木委員長 ハードの縮小のようなことが起こっている。

カ石委員 まさに銀行の支店もそう。10年前より、来店客数が半減している。スマホアプリで大抵のことはできるようになった。公共的なハコモノ機能は要らなくなってくる。

難波委員 ATM さえあれば。

事務局 銀行もスマホがあれば足りる。確かに銀行にしばらく行っていない。

カ石委員 役場もそういう時代が来ると思う。

難波委員 第一期は、在る施設を前提に、施設を集約することだったが、第二期は機能を集約していく。そのために人や仕組みが必要というのをつめていく期間。施設が必要なら、官なのか民なのか。

- 力石委員 とても先進的。
- 難波委員 3つある公民館や学校を社会実験的に使っていく、無印のみんなの台所のように、使いたい人を募集してみるとか、短期間のアダプトができるなどを色々試していく期間。
- 佐々木委員長 完全なモデルまではいかなくても10年間かけて、進めていく体制づくりや社会実験をするなど、しっかり謳っていけば進化する。方向性や大きな枠組みを示し、やりながら考えていく。
- 難波委員 そういう情報発信は無印にやってもらうなど。
- 佐々木委員長 もしくは、そういうノウハウを入れた新たなマネジメントチームなど。アイデアはともよい。あとは、事務局の表現力。
- 事務局 斬新的。二期でこういう話ができるのは、一期で大胆なことを言ったから。二期で大胆なことをしておけば、三期でもっと大胆になる。
- 佐々木委員長 ここまでくれば、皆さん、なるべく大胆なことを提案してもらいたい。年末年始に色々な情報を仕入れてもらい、もう一度ぐらい議論する場があるとよい。他に、議論が足りない論点があれば意見交換を続けたい。
- 事務局 今言った未来にたどりつくために、個別の大きな施設を直してしまってもよいのか。現実的に公共施設のメンテナンスは、真面目にやればやる程、費用が嵩む。
- 佐々木委員長 壊して新しくする時代ではないから、どういう形にせよ、長く使うというのが経済的。しっかり修繕していくということだと思う。しかし、行政が行うと、民間が行うより、費用がかかるという現実もあるので、全部行政が行うのではなく、ある程度民間に移譲するというか、修繕も含めて行ってもらう。現行の指定管理では、大きなお金は行政が動かしているが、そうではない方式を検討してもよい。
- 事務局 民間の利益が出せるなら直すというのが理想。
- 難波委員 視察のときに感じたのは、ぐるるのボイラーや体育館の照明は、まとめて更新するESCOのようなことをすれば、町の負担が少なくてもできるかもしれないが、既に個別になっている。そこは、民間活用を個別に進めたデメリット。電気機器や空調をまとめて入れ替えることができるとうい。
- 佐々木委員長 そういう施設の管理は、バラバラではなく、どこかの部署でまとめて行っているのか。
- 事務局 個別だが、最近では、企画財政課が中心になり、LED化を行った。

- 難波委員 ボイラー系は、燃料代が下がるので、ESCOのようなスキームが使えると思う。
- 事務局 ESCO とは何の略なのか。
- 難波委員 Energy Service Company。改修することで、電気代や燃料代が下がるが、その分も払い続けるので、初期投資をそれで回収してもらおう。ボイラーをやっている会社は空調をやっている会社も多いので、まとめることができれば、やってもらえるのではないか。
- 力石委員 一時、埼玉県内でも実施する団体が多かった。今はあまりない。
- 佐々木委員長 公共施設等総合管理計画には、そういう工夫は示されていないのか。
- 事務局 特に示していない。
- 佐々木委員長 戸田市に関わったとき、戸田市は予防保全として早めに投資して、持たせようとしていた。それを毎年ローリングし、PDCA で確認し、よりよくしていこうというのを書き込んでいた。
- 力石委員 そういう視点はよいのではないか。
- 事務局 あとは現実的に、計画通りに予算が確保できるのか。
- 佐々木委員長 長期的に見ればコストダウンにつながるという発想で、総合管理計画で謳い、優先的に予算を確保する。進修館は玄人受けするが、素人には見栄えが悪い。折角の空間の価値が半減していると思うので、しっかり投資する施設だと思う。それができていないのが勿体ない。
- 難波委員 先ほどの、個別に少しずつ改修してしまっただけという話に繋がるが、小中学校の統廃合を考えたとき、使いやすいところを民間に使ってもらうのか、公共として一番理由が立つところを使ってもらうのか。調整区域にある施設は一度廃止するとそのまま廃止になってしまうケースになりかねないので、町として何を打ち出すのかによる。民活を打ち出していくのか、合理化という方向性なのか。
- 事務局 民活といった場合、どんなものがあるか。
- 佐々木委員長 民間売却とか。
- 難波委員 売却にしてもよいし、貸し出してもよい。
- 力石委員 用途変更を伴うと難しい。
- 佐藤委員 資料の図でいうと、学校を中心とした地域のエリアには、学校と学童保育、陽だまりサ

ロン、公民館を入れて、郷土資料館も機能とすれば入るイメージ。また、個別更新の挙げられている内容で見ると、保健センターは六花と機能をあわせてやるというのが一つ考えられ、給食センターは学校再編にあわせて考えていくことになる。その他の、図書館、ぐるる、はらっパーク、役場庁舎、新しい村はなくせない、残すことになる。これは機能を活用しながら、長く使っていく話。長寿命化に分類されている進修館も残す。問題は学校の話。現時点での考え方とすると、いずれ中学校は1つで小学校はエリアごとに残る。須賀小と百間小は地区の中心として残るが、中学校3つと笠原小、東小は悩ましいところで、10年・20年何とか使っていくことになる、長寿命化というか、子どもたちのために手は入れてもらいたいというはある。ただ、それぞれにお金をかけるというのも難しい。

事務局 　　いずれ統廃合になる。しかし、エアコンや IT 化に伴うインフラ整備など、やらない訳にはいかない。

佐藤委員 　　老朽化した中学校で3年間過ごす子が出てきてしまうのは現実としてあるが、エアコンやトイレの整備など、最低限やってほしいというはある。須賀小や百間小については、エリアとして機能を考えていくのはよいと思う。

佐々木委員長 　　個別更新というのは、いずれ建て替えるという意味なのか。

事務局 　　第一期の考え方では、庁舎は別として、地域の中心施設に寄せていくという大胆な考え方があった。

佐々木委員長 　　だから、この図は最終的に寄っていくのか。

事務局 　　しかし、この5年、10年で考えた場合、図書館やぐるるは改修できない。

佐々木委員長 　　個別更新というよりは、長寿命化の方が自然ではないか。

力石委員 　　保健センターは別にして。

唐松委員 　　保育園もなくせない。

事務局 　　役場でもこのような会議でもなく、どちらかと言うと町民のコンセンサスがある。町民がどう感じ、必要としているか。ある時期の判断と10年後の判断は違う。

佐々木委員長 　　第二期に個別更新はしないが、こう書くと決まっているように見えてしまうから、第三期以降に向けて要検討とした方がよいのではないか。

唐松委員 　　大きな流れとして、民間に移譲できるものは移譲していくというはある。

佐々木委員長 　　行政が新築する必要はないかもしれない。既存の民間施設を借りて、そこに移るというのも選択肢としてあってよい。この選択肢しかないという風にはならない方がよい。

- 唐松委員 地域の中心施設の分類に公民館が入っているが、公民館はどうするのか。集会所や学校など代替できる施設に機能を移転していくなどを明示するのかどうか。
- 佐々木委員長 中心エリアの再編というような書きの方がよい。
- 力石委員 集会所や民間施設も含めた、機能・役割の再編の対象に公民館は入ってくる。
- 佐々木委員長 小学校を建て替えることがあれば、その中に移る。
- 難波委員 場合によっては、そこをどんどん使っていくという風になる場所もあるかもしれない。
- 佐々木委員長 増築して、カフェも併設して。
- 佐藤委員 広場も作って、キッチンカーも来て。
- 佐々木委員長 10年間の工程表を作るとよいと思う。社会実験や組織作りなど。
- 唐松委員 総合計画の中にもあった。事業ごとに5年間の工程が書いてある。
- 難波委員 総合計画の中でも担い手育成というのがよく出てくるので、こことリンクしている。
- 力石委員 施策と連携する部分も多々ある。
- 唐松委員 地区コミュニティセンター事業では、5か年で2か所の地区コミュセン開設と書いてある。これに準ずる形ではどうか。
- 力石委員 関連する総合計画の施策を記述したり、結び付けがあってもよい。
- 唐松委員 このコミュセン事業には、先ほどの話にもあった、コーディネーターにいてほしいと思う。
- 力石委員 関連するものが色々ありそう。
- 唐松委員 子育てサロンやチャレンジショップもそう。
- 難波委員 それをやる場所として、とりあえず公共施設で今あるところを使っていこうと。
- 佐々木委員長 「今あるものの活用」というのは、ワークショップの結果。
- 力石委員 これは民意。

- 佐々木委員長 農の所は独立させて表現した方がよいと思う。
- 難波委員 新しい村と農のみちのエリアや旧進修館の活用といったように。総合病院が欲しいなどに関しては、ニーズはあるが町でやるのは無理。
- 佐々木委員長 県との話になる。
- カ石委員 病床数の計画もあるから、そう簡単にはいかない。
- 事務局 医療圏というのがあり、やたらと病院を建てると共倒れになってしまう。ベッド数でこのエリアはいっぱいいっぱいになってしまっているという話。
- カ石委員 同じ医療圏で建て替え移転というのがはめ込めれば。
- 難波委員 地方で医者を呼ぶことすらできないところは、妊婦健診の通院だけでも何時間もかかるので、助産所を作って病院とオンラインで繋いで、機能を提供している所もある。なので、日常的なものについてはオンライン診療を活用する。
- 佐々木委員長 それをしっかりと謳った方がよい。ハードの縮小でオンライン診療など、デジタル技術を活用することで、公共施設が縮小していく。
- 難波委員 過疎地では、役所が5G の車を用意し、証明書の発行や看護師が同乗して健康相談に対応したりしている。
- カ石委員 国の補助でローカル5G というのがある。エリアを決めて、国の補助金で5G を導入していく。
- 佐々木委員長 総合計画には、5G やWi-Fi について入っていないのか。
- 事務局 入っていない。
- 佐々木委員長 国の補助金を探し、ハードの縮小に合わせて、オンライン技術を発展させるためのインフラ整備にシフトすることを謳って、計画に記載してしまう。
- カ石委員 モビリティなど、新しい技術の導入という視点も入れるとよいと思う。
- 難波委員 根本的には、地域に必要な機能をどれぐらい提供できるか。それは公共施設じゃなくてもよいというところ。
- 佐々木委員長 公共施設の概念のシフト。大体意見が出たような感じだが、事務局からは何かあるか。
- 事務局 特にない。

佐々木委員長 最後一言ずつ感想を。

唐松委員 少し気になることがある。修繕についてはどうなったのか。個別の修繕やハードに問題が生じそうなとき、修繕については入れておかないとまずいと思った。

佐々木委員長 記載するとしたら、総合管理計画になるのか。

事務局 総合管理計画になる。

佐々木委員長 そのための大きな方針は公共施設マネジメント計画。自分の意見としては、けちらずに予算をしっかり確保した方が、長期的に見るとよいと思う。

事務局 エアコンは、ルール上だと 15 年に一度だが、全ての公共施設でそうしているととても費用がかかる。

佐々木委員長 そのためのアイデアとして予防保全。15 年でダメになってしまうところを 20 年持たせるために、壊れる前にメンテナンスに費用をかける。

事務局 ボイラーで言えば、ESCO という考え方。

佐々木委員長 短期的ではなく長期的な視点で考えて判断するというぐらいは書いておいた方がよいのではないか。その場しのぎではなく、長期的な視点。国もそういう意味で総合管理計画を作っている。

佐藤委員 学校のプールはかなり酷い状態だと思う。コロナで 2 年間使われていないので、復活できるのか分からない。それをぐるのプールへというような具体的な内容はあまり入れない方がよいのか。トイレなどは、個別計画の方でやってほしい。

事務局 学校と下水道は個別施設計画がある。その 2 つは、国の補助金がある。

佐藤委員 中学校は、再編があるからやらないというよりは個別計画を基にやってもらえるといい。そのうち、難しくなってくる学校も出てくるだろうから、そのときに給食センターもあわせて議論が必要になってくるのだろう。

事務局 永遠に存在し続ける建物は無いから、いつか建て替えるのか、どうするのかという局面は出てくる。

佐々木委員長 なるべく長期的な視点でというぐらいでしか書けない。個別のことを言ったらきりが無い。自分が気になるのは進修館。一般的に見ると見栄えが悪い。普通に白に塗ればよい。あの建物の価値を残しつつ、雨漏りなどのベーシックな部分はしっかり修繕するというようなことを長期的に計画すべきだと思う。照明器具が電球色から白球色になったのはと

でも気になる。もっとデザイナーの意向を生かして、オリジナルの感じを残しつつ、使いやすくする。Wi-Fi はケチらずに速いやつを。そういうことを通して若い人も馴染みやすい、ハードルを少し下げて、よさを分かってもらえるようにする。少し暗い印象があるので、普段は暗くてもよいが、明るくしたいときに明るくできるようにする。

難波委員 基本的にハコモノの話だったが、全ての公共施設に公園が入っていないのはよいのか。

事務局 エリアマネジメント的な考え方には、公園の機能も入ってくる

佐々木委員長 中心施設ではないが、集会所を中心とした小さな拠点みたいなものがあり、そこに公園が近ければ入ってくると思う。そういう図が描ければよい。図の中に集会所が出てくるとよい。みなさんから意見が出たので、特に一人ずつとしないが、他に言い残したことがあればお願いしたい。もし、気づいた点があれば事務局にメールを送ってほしい。年末年始で色々な情報を仕入れ、大胆な計画書にしていきたい。第三期のためには、第二期がよくないと行けないので、もう一回ぐらい意見交換ができればと思う。

以上